

第4学年 音楽科学習指導案

日 時 令和4年6月13日(月)

第5校時 13:20~14:05

対 象 第4学年 1組 26名

研究主題

自ら課題を見出し、課題解決に向けて「やり通すこと」のできる児童の育成
～「心のふるさとづくり」を軸としたカリキュラムマネジメント～

音楽的な見方・考え方

「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形作っている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連付けること」

1 単元名 「日本のお祭りをたずねて」(全6時間)

2 単元の目標

- (1) 曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりに気付くとともに、思いや意図に合った表現するために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けている。(知識・技能)
- (2) 旋律や音階、音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音楽づくりの発想を得たり、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもったりする。(思考・判断・表現)
- (3) 我が国に伝わるいろいろな音楽の特徴や、人々の暮らしとの関わりに興味をもったり、音階の響きや旋律・リズムの反復のよさや面白さに興味・関心をもって音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、生活の中から生まれた多様な音楽に親しむ。(主体的に学習に取り組む態度)

3 題材の評価基準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| 【知①】 リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気づく。 【技①】 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付ける。 | 【思①】 「秩父屋台ばやし」の旋律や音色リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 【思②】 旋律や音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関りについて考え、音楽づくりの発想を得たり、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりする。 | 【主①】 我が国に伝わるいろいろな音楽の特徴や、人々の暮らしとの関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。 【主②】 音階の響きや旋律・リズムの反復のよさや面白さに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組んでいる。 |

4 研究主題に迫るための手立て

音楽科では、研究主題を次のように捉えました。

- 「自ら課題を見出し」 → 音楽表現に思いや意図をもつ
- 「課題解決に向けてやり通す」 → 一人一人が主体的に最後まで取り組む
- 「心のふるさとづくり」 → 日本や地域に伝わるいろいろな音楽に親しむ

(1) 思いや意図をもって表現する児童を育成するための手立て

① 思いや意図をもたせるための価値づけ

音楽づくりのなかでも本格的な旋律づくりは4年生になって初めて行っている。まだ、自分がどんな旋律をつくりたいのか思いや考えをもったり、できた旋律に自信をもって表現したりすることが難しい。そのため、授業の中で工夫できている子を価値づけ、全体で共有する場面を多く設ける。

② 聴き取ったことと感じ取ったことをつなげる発問の工夫

本単元では、第一時の始めに葛西ばやしを聴かせ「何の音楽だろう」と発問した。また「秩父屋台ばやし」や「京都祇園ばやし」を聴かせた際には「どんな感じの音楽かな」と発問して「感じ取ったこと」を押さえた。その後「なぜお祭りの音楽だと分かったのだろう」「なぜそう感じたのだろう」と発問することで、「笛の音がするから」「リズムがはねているから」「ゆっくりだから」という音楽の特徴に気付かせ、その関わりを考えさせるようにした。

(2) 一人一人が主体的に最後まで取り組むための手立て

① 既習事項を生かした学習過程

4月に「さくらさくら」を歌唱と陰旋法による旋律づくりで扱っている。その際、まとまりのある旋律をつくるために「なるべくとなりの音に進む」とこと、「始めと終わりの音を音階の中心の音にする」ことを抑えている。これは、どの音階を使った旋律作りにも共通する。

② 主体的に取り組むことが難しい児童への支援

鍵盤にシールを張るなど視覚的に分かりやすい教材を工夫したり、プリント記述への支援をしている。また音楽づくりを活用することによって能力に合わせた活動ができるよう配慮している。

(3) 「心のふるさとづくり」を充実させるための手立て

① 学習過程の工夫

音楽科では、6年間を通して国や地域に親しみをもたせるような年間指導計画で学習を進めている。低学年ではわらべうたを多く活用し歌ったり体を動かしたりしながら、また中高学年では箏や和太鼓の演奏に取り組みせながら、日本の音楽に親しませている。また全学年通して、昔から歌い継がれている季節の歌を取り入れている。今回の単元では、日本のお祭りから地元のお祭りへ、より身近な生活に根差した音楽へと興味を向けさせたい。

② 地域人材、地域資源の活用

この単元では、日本のお祭りの音楽を扱う。本来お祭りは、地域に根差したものである。今回は江戸川区・足立区・葛飾区域に伝わる伝統的なお祭りの音楽である「葛西ばやし」に触れることで、地域の音楽に興味をもたせ、やがて愛着をもってほしいと願っている。今後、子供たちが実際にお囃子を聴いたり体験したり、地域の人々の思いを聞くなどの機会をつくり、さらに学習を深めたい。

ICTの活用

バーチャルピアノ (MUSICCA 提供) タブレット上の鍵盤にマークを付けることができ、音階の構成音を視覚的に捉えながら音を出すことができる。

5 題材の指導計画（全6時間）

| 時 | ○学習内容・学習活動 | ◇支援・手だて【評価】 |
|----------------|---|--|
| 1 | <div data-bbox="240 271 804 342" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日本の様々なお祭りの様子の鑑賞</div> <p>○いろいろな「日本のお祭りの音楽」を見たり聴いたりしながら、その特徴やよさを感じ取ったり、暮らしとの関わりに関心をもったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の写真や日本地図を参考にしながら、様々な音楽をDVDで見たり聴いたりする。 気づいたことを発表し、意見を交換する。 東京の「三社祭」と京都の「祇園祭」を比較し、お祭りの様子や音楽の感じの違いを比較する。 | <p>【主①】</p> <p>◇「お祭りの音楽ってどんな音楽？」や「どうしてお祭りには音楽が必要なのかな？」などと投げかけ、音楽と生活の関わりについて触れる。</p> <div data-bbox="997 539 1592 719" style="border: 1px solid green; border-radius: 50%; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">期待する姿</p> <p>いろんなお祭りの音楽があるけど、私は、～のお祭りの音楽がにぎやかで好きだなあ…</p> </div> |
| 2・3 | <div data-bbox="240 750 954 822" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">和太鼓（大太鼓）を使ったリズムづくり</div> <p>○「秩父屋台ばやし」の特徴やよさを感じ取りながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> お囃子のリズムを聴き取ったり、楽器の名前や奏法、バチの持ち方を知る。 響きを楽しみながら、大太鼓を叩く。 締め太鼓、大太鼓のリズムを口唱歌でとなえたり、手拍子で確認したりしてから、大太鼓を叩く。 リズムのつなげ方や重ね方についてそれらが生み出すよさや面白さに関わらせて気づく。 ペアで、リズムをつなげたり、繰り返したりする。 締め太鼓のリズムにのってペアで作ったリズムを大太鼓で叩く。 | <p>【知①】【思①】</p> <p>◇秩父屋台ばやしの面白さを映像で気づかせたり、音楽の特徴を音源で気づかせたりする。</p> <p>◇発表の際に、よさを価値づけ全体で共有する。</p> <div data-bbox="970 1070 1549 1323" style="border: 1px solid green; border-radius: 50%; padding: 10px;"> <p>太鼓を思い切り叩くと、きもちいいなあ… リズムは、交互に叩いて会話をしている感じにしようか</p> </div> |
| 4・5（本時） 6・7 | <div data-bbox="240 1375 995 1447" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">民謡音階を生かした旋律づくり</div> <p>○民謡音階を使ってまとまりのある旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットを使って、音階の音を確認しながら8拍の旋律をつくる。 つくった旋律を木琴で演奏する。 <p>○どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで、つくった旋律を様々につなげて、試す。 グループでAの旋律をア～エから選び、A-B-Aの構成で演奏する。 発表会をし、つくった音楽を友達と聴き合う。 <div data-bbox="240 1921 874 1993" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地域の方による「葛西ばやし」演奏の鑑賞</div> <p>○「葛西ばやし」の特徴やよさを感じ取りながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 締め太鼓の体験をしたり、お話を聞いたりする。 | <p>◇既習事項を生かして旋律づくりを行う。【技①】</p> <p>◇頭の中だけで考えるのではなく、実際に音にして聴きながら、試行錯誤するように声を掛ける。【思②】</p> <p>◇楽器、リズム、音階をキーワードに特徴を捉えさせる。【主②】</p> <div data-bbox="938 1809 1592 2040" style="border: 1px solid green; border-radius: 50%; padding: 10px;"> <p>みんなで合わせて演奏すると楽しいな。民謡音階の響きっていいな。地域の「葛西ばやし」も聴いてみたいな。</p> </div> |

6 本時の学習（5時間目／全7時間）

（1）本時の目標

旋律や音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて考え、音楽づくりの発想を得たり、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりする。

（2）本時の展開

| ○学習内容 ・学習活動 | ◇支援・手だて ◆評価（方法） |
|---|---|
| <p>○どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <p>・本時のめあてを知る。</p> | <p>曲の構成</p> <p>A みんな - B ひとり - A みんな</p> <p>ア～エから 子供たちがつくったせんりつ はじめと同じ旋律</p> <p>1つ選ぶ 8拍×4人（5人）</p> |
| <p>グループでせんりつをつないで、一つのおんがくにしよう</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ A-B-Aの構成で、つくった旋律をつなぎ一つの音楽にすることを知る。 ・ グループで、一人一人のつくった旋律を様々につなげて、試す。 ・ グループでつなぎ方を決めたら練習する。 ・ できた音楽を聴き合う。 （2グループ程度） ・ 考えたことや工夫したことについて、振り返りをワークシートに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇二つの旋律のつなぎ方を比較させ、違いに気付かせる。 ◇伴奏となるオスティナートを流しておく。 ◇頭の中だけで考えるのではなく、実際に音にして聴きながら、試行錯誤するように声を掛ける。 ◇聴きどころが見つけられないチームには、「続く感じ」「終わる感じ」に気付かせる。 ◇なるべく間を空けずに演奏できるよう声を掛ける。 ◇グループの思いを聴き取ったり、児童に感想を述べさせたりして、よさや面白さを価値づけるようにする。 ◆音を音楽へと構成することを通してどのようにまとまりを意識した音楽を作るかについて思いや意図をもつ。（グループ活動の様子・プリント記述）【思②】 |
| <p>・ 次時の活動を知る。</p> | <p>予想されるつなぎ方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最後はウン（4分休符）になっている旋律を最後にした方が終わった感じがする。 ・ 最後は中心の音（ミヤラ）で終わる旋律にすると、終わった感じがする。 ・ 初めは、4分音符が多く使われている旋律にして、だんだん細かい音符にしていくと盛り上がりそう。 |

【Aと判断される児童の状況】 様々なつなぎ方を試したり比較したりして、聴き取ったことと感じ取ったこととの間わりをもとに、どのようにまとまりのある音楽にするかについて思いや意図をもっている。

【Cと判断されそうな状況への手だて】 様々につないだ演奏を聴いて、好きな方はどれか聞いたり、友達の考えを聴くように声を掛ける。またワークシートを書くことが難しい場合は、口頭で聞き取るなどする。

【成果と課題】

成果

- 題材の最後に、地域の方をお呼びして「葛西ばやし」を鑑賞することができた。全国のお祭りから、身近なお祭りへと焦点化していく題材構成は、児童の意欲・関心の高まりと知識・技能の高まりが相まってよかったのではないかな。
- 本時では、児童の作品を取り上げて、旋律の「つながる感じ」「終わる感じ」に気付かせた。また更にそれを基にグループで旋律をつなげ、気づきを大切に学習ができたのではないかな。
- 前時の和太鼓を使った学習では、ペアで「反復」や「変化」などの音楽の仕組みを用い、そのよさを感じ取りながらリズムを繋いでいくことができた。ペア活動によるリズムづくりの有効性に気付くことができた。

課題

- 思いをもたせる際に、児童の語彙が少なく言語活動が活発にできなかった。「にぎやかな感じ」や「落ち着いた感じ」など気分を表す言葉を掲示し、言語活動の助けとしたい。
- 「葛西ばやし」を題材とする場合、もともとお囃子はお祭りを盛り上げるための音楽なので、旋律作りよりもリズムを中心とした活動の方が適していたのではないかな。
- 実際に楽器を鳴らす時間よりも、グループで考える時間が多くなってしまった。また、グループ（4人）でつなげることは、技能的に4年生にとって難しかった。繋げるならペア活動にし、間違いの生じる創作ではなく、即興的に旋律を繋いでいく方が、時間も短縮でき児童にとっても楽しい活動になるのではと考えた。

※指導案上で、実践後に変更した箇所は、青白表示になっています。